

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の開示(専門学校)】

学校名	東京YMCA医療福祉専門学校
設置者名	学校法人東京YMCA学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	開示方法
	いずれもトップページ左端のバナー「情報公開」からリンクした先のページに 諸表名が並んでいてそこから確認できる
貸借対照表	http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/bs_2018.pdf
事業活動収支計算書	http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/jigyo_shushi_2018.pdf
財産目録	http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/inventory_2018.pdf
事業報告書	http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/jigyo_hokokusho_2018.pdf
監事による監査報告書	http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/audit_2018.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士	高度専門士	
教育・社会福祉関係		社会福祉専門課程		介護福祉科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数 又は 総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
			945 時間	555 時間	576 時間	0 時間	0 時間	
2年	昼	2,076 単位時間	2,076 単位時間					
学生総定員		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160		66	16	6	9	15		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 学校独自の「東京YMCA医療福祉奨学金」、「多摩地区修学就労奨学金」、「私費留学生奨学金」（以上全て給付型）をはじめ、経済困窮学生支援制度（国の事業を活用）などの経済的支援を行なっている。 また、授業理解が十分ではない学生を対象として放課後に補習をしている。更に学内のPCはインターネットを自由に利用でき、論文検索システム(CiNii)の契約もあるため、学修に活用できている。プリンタも無料で開放している。放課後は午後8時まで図書室や教室を開放していて学生の自習に活用できるようになっている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 (100%)	0 人 (0.0%)	17 人 (81.0%)	4 人 (19.0%)
（主な就職、業界等） 特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害児者療育施設などに就職している。			
（就職指導内容） 就職支援演習での様々な演習を通じて施設種の理解、仕事内容や待遇の理解に立って、更に自己理解を重ねた上で適切に自らの事を表現でき、就職先の状況を知ることが出来る力を養っている。			

（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士国家試験は21人全員が合格した。
（備考）（任意記載事項） 社会人経験のある学生が様々な家庭の事情の中で卒業後すぐの就職を見送ったが、近い将来就業できる状況が整い次第に就職する意思は持っている。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28(1年)+24(2年)=52人	3(1年)+3(2年)=6人	11.5%
（中途退学の主な理由） メンタル不調、家庭の事情、その他		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制により個別の事情を早期に発見する。また学生相談室（非常勤カウンセラー配置）の活用により適切な選択が出来る支援をする。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
医療関係		医療専門課程		作業療法学科		○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数 又は 総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
				3年	昼	3,006 単位時間	1,296 時間	110 時間	1,060 時間
			3,006 単位時間						
学生総定員		学生実員		うち留学生 数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
90		43		0	6	22		28	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 学校独自の「東京YMCA医療福祉奨学金」、「私費留学生奨学金」（以上全て給付型）をはじめ、経済困窮学生支援制度（国の事業を活用）などの経済的支援を行なっている。 また、授業理解が十分ではない学生を対象として放課後に補習をしている。更に学内のPCはインターネットを自由に利用でき、論文検索システム(CiNii)の契約もあるため、学修に活用できて

いる。プリンタも無料で開放している。放課後は午後8時まで図書室や教室を開放していて学生の自習に活用できるようになっている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	0 人 (0.0%)	9 人 (50.0%)	9 人 (50.0%)
（主な就職、業界等） 病院、老人保健施設など			
（就職指導内容） ジョブカフェを通じて業界理解を深め、就職指導室長による就職オリエンテーションを皮切りに継続的に就職活動を支援している。また卒業生を積極的に各授業のゲスト講師に迎え、授業内外で実際の職業現場を理解出来るような工夫もしている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家試験は合格率が50%であった。合格した9名は全員就職した。			
（備考）（任意記載事項） 国家試験の結果では今年度は成果が十分には発揮できなかった。不合格者への継続的な指導と現役学生への合格への指導を並行して実施する。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49 人	0 人	0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制により個別の事情を早期に発見する。また学生相談室（非常勤カウンセラー配置）の活用により適切な選択が出来る支援をする。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金 (入学時)	授業料 (年間)	その他	備考(任意)
介護福祉科 (2 年制)	200,000	700,000	350,000	
作業療法学科 (3 年制)	300,000	1,000,000	450,000	
修学支援（任意記載事項）				
学校独自の「東京YMCA医療福祉奨学金」、「多摩地区修学就労奨学金(介護福祉科のみ)」、「私費留学生奨学金」（以上全て給付型・減免型として制度を適用）をはじめ、経済困窮学生支援制度（都の制度を活用）などの経済的支援を行なっている。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ホームページオフィシャルサイト内の情報公開のページで公表 トップページの左端にバナーがある。それをクリックしたページの URL http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/disclosure.html このページのやや上段に「■ 第三者評価に関わる情報公開」のタイトルがあり、その「自己点検評価報告書（2019 年度）」をクリックすると下記ファイルになる。 http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/jikohyouka2019_1st_revised.pdf ※ タイトルは 2019 年度となっているが内容は 2018 年度のものである（一部情報を除く）
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
＜評価項目＞ 教育目標（カリキュラムポリシー）に沿った取り組みの達成状況を評価し、主として学生に対する教育の質の向上をし点として持ちながら委員会を運営する。 ＜計画と結果の公表＞ 学校運営を継続的に改善してゆく事ができるように計画し、そのプロセスと結果を公表する。さらに、自己点検評価の客観性について評価し、その結果も公表することによって、地域・業界 などにより透明性を高めた情報提供をする。 ＜評価委員会の構成＞ 委員会は、次の各号に掲げる委員 3 名以上をもって組織する （1） 業界関係者 （2） 卒業生 （3） 有識者 （4） その他必要と認められた者 ＜委員会の進め方と結果の活用＞ そして委員会は、教育活動、学校運営に関すること及びその他の自己評価結果を学校関係者の立場から点検評価する。そのため年に 2 回の会議と 1 回の視察を行なうこととする。 初回の会議では前年度の取り組みの結果を報告し、更に最新の自己点検評価書をもとに質疑応答、提言などをまとめる。そして 2 回目の委員会ではそれに対する学校の取り組み計画を説明し、すぐに取りかかった事、これから取り掛かる事を整理する。委員会ではそれに則って意見提言を

まとめて学校に示す。
委員会の提言を受けて校長を中心とした体制で継続的にPDCAの手法で学校改善活動に取り組む。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
社会福祉法人	2019/4/1- 2020/3/31	業界関係者兼卒業生（介護福祉分野）
総合病院（事務長兼作業療法士）	2019/4/1- 2020/3/31	業界関係者兼卒業生（作業療法分野）
高等学校進路団体	2019/4/1- 2020/3/31	高等学校関係者
専門学校校長	2019/4/1- 2020/3/31	学識経験者

学校関係者評価の公表方法

ホームページオフィシャルサイト内の情報公開のページで公表
トップページの左端に情報公開のバナーがある。それをクリックしたページのURL
<http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/disclosure.html>

このページの最下段に「■過去に公開された情報」のタイトルがありそこをクリックした先のURLは次の通り

http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/disclosure_back.html

そのページの最上段「■2018年度情報公開」の中に学校関係者委員会議事録（第1回及び第2回）や委員会名簿（こちらは実名入り）がアップされている。

<ご参考>

議事録 URL

http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/2018/gakkan_gijiroku_2018_1.pdf

http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/2018/gakkan_gijiroku_2018_2.pdf

第三者による学校評価（任意記載事項）

ホームページオフィシャルサイト内の情報公開のページで公表
トップページの左端に情報公開のバナーがある。それをクリックしたページのURL
<http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/disclosure.html>

このページのやや上段に「■第三者評価に関わる情報公開」のタイトルがありそこに前段で記載した「自己点検評価報告書」に続けて、第三者評価を受審した結果を2回分公開している。
なお、私立専門学校等第三者評価で平成18年度に受診した結果についてはその後の平成24年度に受診した分の方（現在公開中）が最新であるため古い結果は公開していない。

<ご参考>

公開ファイル URL

<http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/report1-tokyo-ymca-iryofukushi.pdf>

http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/pdf/daisanshahyouka_kaigo_2018.pdf

c)当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

<http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/>